



創造力が
未来をつくる。

令和6年度版 図画工作 内容解説資料

本資料は内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

日文の新版教科書情報

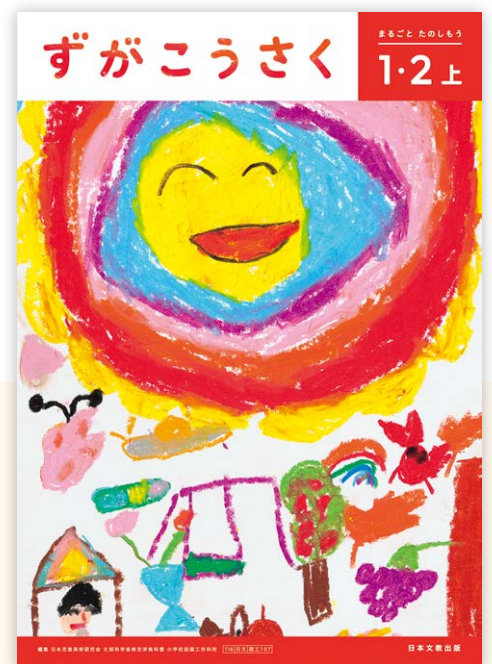
詳しくはWebへ!

日文

検索



未来をになう子どもたちへ
日本文教出版



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

未来をつくる 「わたし」をつくる 時間



図画工作は、未来をつくる「わたし」をつくる時間です。

わたしだけの思いを、わたしの力で形にし、
だれかと一緒に、想像しなかったものをつくりだし、

知らなかった「わたし」に、
知らなかった「あなた」に、
知らなかった「たくさんの思い」に出会う時間です。

この一つひとつの体験、一つひとつの時間の積み重ねが
「わたし」の創造力を育みます。

創造力は、
一歩踏み出す力、
自分の手で未来をつくる力になります。

日本文教出版の『図画工作』は、
未来をつくる
一人ひとりの「わたし」に
寄り添う教科書です。

CONTENTS

- 4 自ら考える力 決める力 やり抜く力
- 6 多様な他者と協働する力
- 8 よりよい未来を創造する力

point 1

やってみたいを引き出す教科書

- 12 心を動かす題材紙面
- 14 表現・対話が深まる新しい“道具”
- 16 豊かな形や色との出会い

point 2

学習の進め方が分かりやすい教科書

- 18 「学習の流れ」が見える
- 20 徹底した安全指導
- 22 題材と一体的に使える充実の資料
- 24 発想を広げるしかけ

point 3

成長に寄り添い、学びを広げる教科書

- 26 幼児期と小学校の学びをつなぐ
- 28 6年間の学びを支える
- 30 学びを、生活・社会・未来へ

- 32 編集上配慮した点 — 現代的な諸課題への対応 —
- 36 学びが深まる・広がる 日文のQRコンテンツ
- 38 教師用指導書のご案内
- 42 指導者用デジタル教科書（教材）
学習者用デジタル教科書・教材

資料編

- 44 つながる学びと各教科の内容項目との対応
- 46 題材系統表
- 48 年間指導計画例
- 50 地域別事例・作品一覧

- 52 教科書検討の観点から見た内容の特色
- 62 著作関係者
- 63 表紙に寄せて
日本文教出版の志 — purpose

デザイン：木元省美堂・岡田憲明 和田幸恵
イラスト：やまねりょうこ
印刷：木元省美堂



自ら 考える力 決める力 やり抜く力

出会う



触れる



夢中
になる



発見
する



見る



想像する



考える



つくり
だす

図画工作科は、造形的な見方・考え方を働かせながら、子どもたち一人ひとりが自身の思いや考えをもとに創造していく時間です。

材料や場所に出会い、体全体の感覚を働かせて感じ取り、繰り返し試しながらイメージを生み出します。

活動の過程で問題が生じたときには、よりよい方法を考えたり、イメージを変えたりしながら、自ら決めて作品を完成させます。

日文の教科書ではこうした流れを大切にしており、子どもたちは、つくりだす喜びを味わいながら学びを深めていくことができます。

感じる



試す

※本冊に記載の二次元コードより、2023年9月16日までQRコンテンツをご覧いただけます。

「実体験」を通して、自己肯定感を高める

小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝い、異年齢の相手と遊ぶ機会が多かった子どもは、高校生の時点で自分への肯定感・満足感や外向性、精神的な回復力が高い傾向にあることが明らかになりました※。

材料に触れ、用具を使って自ら表現したり、友だちの作品や美術作品を鑑賞したりといった「実体験」を通して資質・能力を育む図画工作科は、自己肯定感を高め、多様性を尊重する心を磨く上で、今後ますます大きな役割を果たしていくと考えています。

※文部科学省『21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）』および『令和2年度 青少年の体験活動に関する調査研究結果報告』参考

体と心をほぐす ずこうたいそう



profile

近藤 良平 さん

ずこうたいそう振付・音楽・ナレーション担当
コンドルズ主宰
彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

体が緊張してガチガチになっている人に、外からいくら「力を抜いて!」と言っても、余計に力が入っちゃう。でも、「筆になってみよう」と言われたらどうでしょう。自分が本当に筆になったつもりになると、やわらかくしなやかに体が動き出します。自分の内側にイメージをもつことで、体も心も自然とほぐれていくんです。

ICT活用 QRコンテンツ

ふでになる たいそう

体と心をほぐして、授業に向かう気持ちをつくる体操を8種類用意しました。オリエンテーションや、友だちとの関係づくりにも活用できます。



全巻の目録にある二次元コードから視聴できます



多様な他者と協働する力

図画工作科は、活動を通して自分を認め、他者を認め、多様な思いや考え方を尊重する心を育むことができる教科です。日文の教科書では、協働的に取り組める題材や、互いの作品や活動について話し合い、認め合う様子を多く掲載しています。対話的な学びを促すことで、豊かな感性を育むとともに、多様性を尊重する態度を養います。

対話する

ギターや音ぶがあるから、音楽のじっけん室みたい。

おもしろい考えだね。わたしは、ピラミッドのひみつのへやの中だと思ったよ。

なるほど。くらくてふしぎな感じだから、そんな見方もできそうだな。



3・4上 p.48-49 「絵を見て話そう」



3・4上 p.5 「ためす 見つける」



1・2下 p.46 「であって生まれる いろの せかい」

違いに気付く



3・4上 p.25-26 「土をかんじて」

尊重し合う



3・4上 p.22-23 「トントン どんどん くぎうって」

共につくる



3・4上 p.40-41 「クミクミックス」

互いのよさや個性を認め尊重し合う



profile
山下 完和 さん
障がい者多機能型事業所
やまなみ工房施設長

「私にできることで、かれらにできないことがあったとしても、かれらにしかできないこともたくさんあって、それが、絵をかいたり、ねん土で、見たこともないようなものをつったり、ししゅうをしたり、自分の好きなように自分自身を表現することができるというのが、最大のみりょくだと思います。」

ICT活用 QRコンテンツ

自分の好きなように自分を表現する



5・6下 p.57 「材料と用具のひきだし」より





よりよい未来を 創造する力

環境問題、資源不足、貧困、差別、争い……。現代社会が抱える課題は複雑化し、わたしたちを取り巻く環境は日々変化しています。日文の教科書では、予測困難な時代の中でも、自分なりの考えをもち、周囲の人と協力しながら持続可能な社会をつくりだす力を育てていきます。

わたしたちは、地球がもつ豊かな自然環境の恩恵を受けて、日々の暮らしを営んでいます。周囲の人はもちろん、地球と一緒に暮らしている生き物たちの営みにも思いを馳せることが大切です。



SDGs アートウォール・プロジェクト

3・4上p.53「広がる図工 みんなとつながる」

共生する

子どもたちが、海洋プラスチックを並べてつくった壁画。楽しそうに海を泳ぐ生き物たちが描かれています。

かたづけ

つかえる しんぶんしは
とっておこう。



再利用する

日々の授業や生活の中で、資源を大切にしようとする気持ちを涵養することを大切にしています。

1・2下p.20-21「しんぶんしと なかよし」

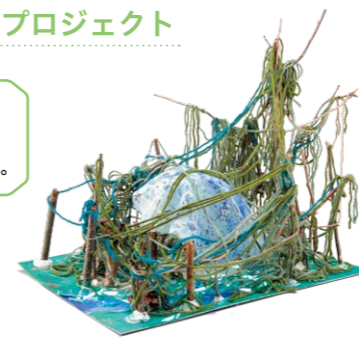
自分ごと にする

「こんなことが実現できたらいいな」「こうなりたいな」と想像することで、新しいアイデアが生まれ、未来への期待が高まります。既存の概念にとらわれない子どもの想像力は、まだ見たことのない社会をつくりだす可能性を秘めています。

新しい 価値を 創造する

あったらいいなプロジェクト

自然あふれる学校で、木や川、がけがあり、子どもがのびのび学べる。



▶ 想像～山の中の学校
[高さ45cm / ボール紙、絵の具、枝、毛糸など]

5・6下p.50-51「あったらいいなプロジェクト」



5・6下p.50-51「あったらいいなプロジェクト」

未来のわたし

かた足をふみ出して、病気の子のお話を聞くようなやさしいお医者さんになるよ。うでまくりをしている白衣は布でつくったよ。



▶ 病気を治すかっこいいお医者さん
[高さ15cm / 板、紙ねん土、厚紙など]

5・6下p.54-55「未来のわたし」

SDGsの観点 について

詳しくは、別冊「図画工作でできる！
SDGs 持続可能な社会の実現に向けて」



絵は考えるための道具です



profile
山中 俊治 さん
プロダクトデザイナー
東京大学教授

紙との対話をくり返しながらかく想像を形にしていきます。私にとって絵は考えるための道具です。その道具を自然に使えるのは大事だと思います。上手な絵をかこうとしなくていいと思います。自分が想像したものや空想したものを人に伝えたり、こんなものがあったらおもしろいと思ったものをいねいに考えようと思ったときに絵は便利です。



QRコンテンツ

空想を形にするために



5・6上p.59
「材料と用具の
ひきだし」より

